

# 平成26年度 自己評価書

学校名	和歌山市立三田小学校
校長氏名	吉原 良治
作成日	平成27年3月5日

## 1 教育目標

主体的・創造的な子どもを育てる。

## 2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	○ゲストティーチャーを招くと共に、地域の教育資源を生かした学習を積極的に進める。	○環境美化を心がける。 ○植物の栽培に積極的に取り組む。 ○道徳教育を充実させ規範意識を高める。	○基礎学力の定着を図る。 ○「かく」力を核に、関わり合う力・活用する力を伸ばす子ども主体の授業づくりをする。

取組の状況【D】	運動会や学校開放週間には、保護者だけでなく地域の方にも多数参加していただいた。土曜参観日に教育講演会を行ったため、多くの保護者が参加し意義ある時間とできた。今年も地域の方の田んぼをお借りして5年生が稲作を行った。籾まきから刈り入れ、しめ縄作りまで地域の方の力をお借りして、滞りなく実施することができた。餅つき大会も保護者・地域の方々の参加で大盛況であった。	環境美化は子どもの情操教育に直結するものと捉え、清掃や掲示、栽培活動に職員・子どもが積極的に取り組んだ。校庭には花を絶やさず、多くの学年で野菜作りに取り組み調理して食べることができた。廊下の掲示板も、季節に応じて各学年が工夫した作品を飾った。本年度は高学年図書室の整理に取り組み、利用しやすくなり、子どもの利用率が上がった。	年間6回の研究授業を通して、子どもの実態を確認しあうことで、「今努力すること」を浮き彫りにして各学級の授業に反映していった。 話し合いを重ねる中で、書くことの有用性を実感すると共に、朝学の時間の「視写」は継続すると共に昼休憩後に「基礎学」の時間を設定し、漢字や計算問題に取り組み、確かな学力充実に努力した。
(取組の結果と課題【C】)	学校開放週間には、子どもたちの作品だけでなく、地域の方々の写真や作品も展示した。そのため、地域の方々が多数見に来てくださった。 夏祭りでは、地域の方々の出店もあり、子どもたちの笑顔に大いに貢献していただいた。地域と学校が一体となれる行事である。	植物の栽培は子どもたちにとって魅力的なことで、毎朝登校するやいなや水やりする姿をよく見かけた。掲示板にイタズラしたり草花を荒らすようなことは全くなかった。 1年生の鶴亀会との交流は、自分たちの演技を見て頂くだけではなく、昔の遊びを教えてもらい給食も一緒に食べるなど、貴重な時間が共有でき大いに心に残る交流となった。	書く活動は、国語科での取り組みに留まらない。各教科で積極的に取り入れることで、コミュニケーションも円滑になることを実感できた。 特別支援を要する子どもに、個別に対応することで自信を付けることができた。表情も開放的になり、ゆっくりした歩みであるが、確かに力を付けることができた。
次年度に向けての改善方法【A】	もっと多くの行事に、地域の方に声をかけさせていただき、参加していただきたい。そうすることで、さらに行事の幅が広がると考える。学級においても地域人材をゲストティーチャーとして招き子どもの心に深く残る活動を考えていきたい。	環境美化の取り組みは、子どもの心に深く浸透したと考える。清掃の徹底、更なる進化は今後課題としたい。心を磨くように、特にトイレは隅々まできちんと取り組ませたい。 心ない言葉で友だちを傷つけたり、暴力をふるう等の行動が時々見られることから、道徳・人権教育を充実し子どもの心をさらに耕したい。	朝学としての視写の取り組みの効果は確認できている。取り組み内容も学級の実態や実情に応じて施行できるようになっている。基礎学の時間はスタートを切ったばかりで、成果の検証を進め、取り組みの確立・充実を図っていきたい。 低学年図書室の整備を進め、図書館を使いやすくして読書に対する意識を高めることで心や語彙の充実を図りたい。

## 3 その他の課題

--